

第1学年 みらいにおける「意味と内容」のひろがり

1年C組 辻本 郁夫

一題材「あそびめいじん」の学習を通して一

1 子どもに対するねがいと学習指導のねらい

子どもたちの楽しみって何だろう。子どもたちが活動に没頭し、真剣に物事に打ち込み、はしゃいだり、首を傾げたり、いい顔で笑ったりすること。全身で生きてることを表現しているなって思える豊かな表情が見られる時、子どもたちは満足・成就感で満たされるのではないだろうか。このような子どもの姿を頭に描き、学習として成り立つ遊びに取り組んでみたいと思った。遊びは本来は子どもにとって生活そのものであり心身の発達に欠くことのできない活動の一つである。しかし、この遊びについても少子化、核家族化、また過度の受験戦争等の社会の変化に伴い本来の望ましい遊びが陰を潜めているように思われる。本単元では時間・空間・仲間の3つの「間」を有機的に作用させ様々な遊びとかかわる中で意味と内容のひろがる学習へと誘ってきた。

子どもは「もの・こと・ひと」とかかわる中で学習対象に主体的に取り組むことができる。そこで本単元において遊びや地域の方々・幼稚園児を学習対象におき「かかわり合う力を育む」ということを主眼として学習を進めてきた。さて、ここでの「かかわり合う力」とはどのようなことかということ。まず、子どもたち一人ひとりが対象の良さに十分に浸り込むことができる活動を大切にしたい考えた。そしてその活動や体験を通して、よりよいかかわり合いの姿を身につけさせたい。このよりよいかかわり合いの姿、これをまず1点目の「かかわり合う力」ととらえた。

次に主体的な学習活動が展開されるためには子どもの中から育った問題意識を大切にすることである。そのためには、子どもたちの思いや願いを育てること、育った思いや願いが実現に向けて取り組んでいけるという意識を持たせることである。このことが主体的に学習する上での意欲やエネルギーになる。この思いや願いを育てるためには、対象と直接かかわるような活動や体験を通すことが大切である。対象とかかわることで、子ども自身の中に、様々な思いや願いが生まれてくる。この生まれてきた思いや願いをお互いに共有することで、さらなる学習の広がり結びつけていけるのではないか。ということで2つ目には「かかわり合う力」の「力」を「かかわりから応じる思い、願いをどのように自己解決、相互解決していくか」を「力」と考えた。

すなわち、かかわりあう力とは

☆よりよいかかわり合いの姿を身につけること

☆かかわりから応じる思い、願いを自己解決、相互解決していくこと

ととらえ、一人ひとりの子どもが遊びという活動を通して、学習を効果的に展開する中で、人間として人間らしく生きるために、学んだことを生きる力に転化しうる学習活動に作り上げていける。そしてさらにはこのことが「自立への基礎を養う」へとつながることであり、意味と内容がひろがるものととらえる。

〔単元目標〕

- ・自分の思いや願いを実現するために自分に合った表現や効果的な表現を工夫することができる。
- ・様々な遊びに関心を持ち、友達や地域の方々と遊ぶ楽しみを味わうとともに、意欲的に遊びを楽しむ。
- ・幼稚園児に喜んでもらえるような遊びを考え、準備したり園児と楽しく遊んだりできる。
- ・遊びを考えたり、教えてもらう活動を通して人と触れ合ったり身近な自然の様子や変化を感じたりする。

2 1年生の子どもがとらえた「意味と内容」

☆伝承遊びをすることの意味と内容

けん玉、お手玉、めんこ、ビー玉……。これらの遊びは今ではあまり見られなくなった遊びではあるが一昔前までは家の庭先や友達同士の中で行われた遊びである。この昔から伝わる遊びを意図的に学習材として取り入れた。これらの遊びを知り、遊ぶ楽しさを味わうことを通して、今と昔の文化の違いに気づいたり、工夫して遊んだりするきっかけに発展していった。また、ゲストティーチャーとして招待した地域のおじいさんやおばあさん方と触れ合うことで、よりよいかかわりの姿を獲得していく姿が見られた。

☆岡山幼稚園児との触れ合いを通じた意味と内容

小学校に入学して少し大きくなったことを実感している子はいるが、周りからは1年生という見方をされ、まだまだ甘えがある子も多い。年下の子を招待するという活動を設定することで新たな気づきが生まれた。「遊ぶ時どんなことをして遊ぼうかな」「遊び方をどのように説明しようかな」など、ここではお兄さんお姉さんという意識を持ち活動したり、相手を受容しながら活動することで相手に対しての思いやりや人とかかわる楽しさなど、年下の子とのかかわり方を試行錯誤していった。

3 「意味と内容」がひろがる場面

◇伝承遊びを教えてもらおう

以前、お家の人に聞き取りをしてきた中に色々な遊びがあった。お手玉、おはじき、こままわし……。これらの遊びは今ではほとんど見られなくなった遊びはあるが、一昔前までは家の庭先や友達同士の中で行われた遊びである。この昔から伝わる遊びを知り、遊ぶ楽しさを味わうことで今と昔の文化の違いに気づいたり、工夫して遊んだりするきっかけに発展してほしいと思った。また、ゲストティーチャーとして招待したお年寄りの方と触れ合うことでよりよいかかわりの姿に広がっていくものと考えた。今回は附属小学校の先輩である5名のおじいさん、おばあさんに来ていただいて一緒に遊んだ。この時はお手玉・リングころがし、おはじき、ゴム跳び、カンぼっくりの遊びを教えてください活動をした。

実際に何種類かの遊びにかかわり、お年寄りの方々と触れ合う中で子どもたちの中に新たな変化があった。1点目は休み時間に子どもたちがお手玉やおはじき、ゴム跳びに興じ始めたことである。さらによく遊びをみていると自分たちで簡単なルールやきまりを作り遊んでいた。

リングころがしにおけるきまり

- ・順番に並んで待つ
- ・一回失敗したら次の人と交代する
- ・転がす棒の先は危険だから人に向けない
- ・上手にできたら拍手をする

また、今まで活動を共にすることが少なかった子ども同士にも活動の輪が広がっていった。着目時♠も自分たちで作ったルールに従って活動を楽しんでいた。つまり、今までの仲良しグループを通してのつながりから、遊び（おはじきやお手玉）を通してのつながりへと人間関係も変わっていったものと推察する。

子どもの感想より

おてだまを おしえてくれました。おじいさんおばあさんにおしえてもらったらとてもべんきょうになりました。おばあさんとおじいさんがこなかったら ぼくはまだ おてだまができませんでした。できるようになってうれしかったよ。

◇岡山幼稚園児を招待する準備をしよう

地域のおじいさん、おばあさん。いわゆる高齢者の方々との交流の後、次は異年齢ということで年少者との交流の場を設定した。最初の出逢いとして附属小学校に岡山幼稚園の年長組であるコスモス組さんとチューリップ組さん59名を招待することにした。基本的には時間を決め一人で二名の園児のお世話をすることにした。お世話をする相手が決まったら、どのように招待するか、またどんなことをするかを考えた。ここで生きてきたのは自分たちが6年生のお兄さん・お姉さんからしてもらった経験であった。附属小学校では1年生と6年生が交流するという触れ合いの形態をとって活動を行っている。本クラスの子どもたちも入学して間もない4月、初めての交流の時もらった自己紹介カードがとても嬉しく、印象に残っていたようである。そこで、今回はその嬉しかったプレゼントを岡山幼稚園のコスモス組さんとチューリップ組さんにも分けてあげたいという声上がり、早速「自己紹介カード」を作るようになった。まだ、見ぬお世話する子のことを思い描きながら熱心に製作や招待する準備に精を出していた。

◇岡山幼稚園児との交流

さて、いよいよ招待当日の日がやってきた。附属小学校と岡山幼稚園とは、ほん目と鼻の間、いつも登下校のおりには前を通って入るもの普段はあまり意識はしていません。でも、この日はいつもと違った。朝からそわそわしている様子が端から見えてわかった。と同時に子どもたちの本日にかける意気込みも感じられた。

着目時♣・◆・♥・♠は自己紹介の後、園児を校内を案内することになっていた。♣は保健室や図書室に手をつなぎ連れて行った。普段は口数の少ない子ではあるがお姉さんとしての自覚をもって堂々として活動していた。◆も手をつなぎ校内を案内していた。この子も普段は積極的なクラスの子ども達の陰にかくれあまり目立たないが、この日は意欲的に活動しており大変立派に見えた。

☆☆ふれあいカードより☆☆

・きょう おかやまようちえんの子が きてくれました。ふぞくしょうがっこうにきてくれました。うれしかったです。1じかんめは T・Hくんを おせわしました。たいへんだったけど かわいかったです。T・Hくんと いっしょに ほけんしつにいきました。
♣子

・きょうは おかやまようちえんの子が きてくれました。ねんどであそびました。たのしそうにしてくれ とても うれしかったです。ようちえんの子にカードをわたしました。こんどは、おかやまようちえんに いきたいです。♥子

◇幼稚園に行く準備をしよう

前回の「岡山幼稚園に行きたい。」「○○君と岡山幼稚園に行って一緒に遊びたい。」という子どもたちのまなざしを尊重することにした。幼稚園との交渉の結果12月9日に訪問することになった。そのためにどのような交流の仕方をするか考えることにした。子どもたちとの話し合いの結果、以前おじいさん、おばあさんに教えてもらったお手玉やゴム跳びを教えてあげたり、自分たちで考えた遊びを紹介したりして遊ぶことに決定した。

まず、自分ならどのような遊びにするか個人で考え、それをクラスのみんなに提案して、アドバイスを出し合うことでよりよい交流の仕方への的を絞っていった。

子どもたちの準備した遊び

お手玉グループ、ゴム跳びグループ、あやとりグループ、おはじきグループ、ヨーヨーグループ、魚釣りグループ、ボーリンググループ

また、話し合いの活動の中で「ただ遊ぶだけではつまらないのではないか」という、考えの子が出てきた。その結果、友達のアドバイスをもとに、うまくできた園児に賞状や励まし文を用意する子も出てきた。クラスの子どもたちがまなざしを共有する上で出てきた副産物ではないだろうか。

◇岡山幼稚園での交流

「岡山幼稚園の子と遊ぶ用意をしよう」を合い言葉として準備に頑張ってきた。いよいよその成果を見せる時である。岡山幼稚園の遊戯室に入って活動を共にした。始めに前回附属小学校に来てくれた園児と再会した。以前附属小学校に来てくれた時以来の出会いであったが、どの子も相手の顔と名前をよく覚えていた。早速ペアになっての活動（遊び）が始まった。でもここで予期せぬ問題が起こった。それは1年生の子どもの考えていった遊びをやりたくないという園児が出てきたことである。せっかく考えて行ったのにショックを隠しきれないようであった。でも、園児の気持ちを優先させるという方向で気持ちを切り替え頑張って交流していた。また、あやとりにおいても自分以上に上手にする園児がいることにびっくりしている子どももいた。まだまだ融通のきかない1年生の子どもたちではあったが、この時ばかりは自分勝手なことはできないことや上には上がいることを感じ取ったことである。わずか1時間ほどの交流ではあったが、年少者と触れ合う中で意味と内容のある活動であった。

子どもの感想より

きのう おかやまようちえんへいきました。ゴムとびやあやとりをしました。
あやとりでゴムをしたり むずかしいやりかたの ほうきを見せてくれました。
わたしは びっくりしました。まけないようい がんばりたいです。

おかやまようちえんにいって ヨーヨーをしてあそびました。すごきたいへんでした。
たのしかったけどつかれました。でもがんばりたいです。 ♠

4 成果と課題

最近の子どもたちは前述もしたが核家族化や少子化等で遊ぶ機会が減るなど生活環境や生活リズムが変化してきている。異年齢児との触れ合いの不足も言うまでもない。これらのことは人とうまく関われない子や自己中心性から脱却できない子を多くする要因でもある。かつての子どもたちは年少者や年長者と触れ合う中で思いやりや面倒見のよさを学んできた。これらの視点も含めて今回のこの学習を振り返ってみると

- ・子どもたちは自分の用意した遊びに厭きてしまったり興味を示してくれない園児に直面することで、必ずしも自分の思い通りにいかないことに気づけたこと
- ・年長者らしく園児の興味や関心や思いを受け止め園児に喜んでもらえるように振る舞う姿勢に目覚めたこと
- ・高齢者の方々との交流の仕方と園児との交流の仕方に違いのあることに気づくきっかけがつかめたこと

が成果として上げられる。ただ、

- ・今回は高齢者の方や園児との交流において、2回ずつ機会を設けてきた。今回だけで終わらず継続的に交流できるように図っていくことが大切である
- ・どの子も園児に対して優しく振る舞う態度を見せてくれたが、その場の雰囲気や押された活動に終わっていないか
- ・伝承遊びも一時的なものとして終わったのでは無いか。広く子どもにいきわたることができなかったのではないか

が課題として考えられる。今後これらの課題をどのようにしていけばよいか考えながら研究を進めていきたい。